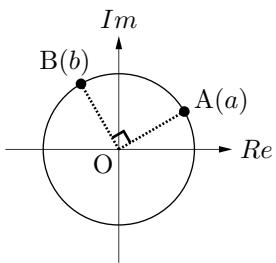


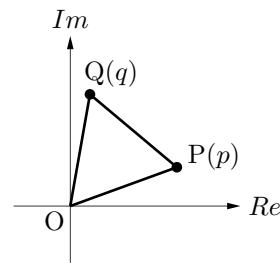
# 反射テスト 複素平面 角度の表現 01

1. 複素平面上の点を表す複素数を考える. ( ) 内はその点を表す複素数とする. 虚数単位は  $i$ ,  $\omega = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$  とする.  
 ( S 級 1 分 35 秒, A 級 2 分 20 秒, B 級 3 分 20 秒, C 級 5 分 )

(1)  $b$  を  $a$  で表せ.

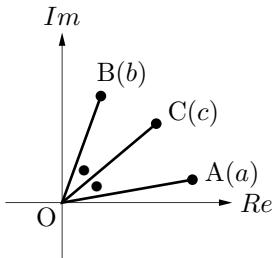


(2)  $\triangle OPQ$  が正三角形であるとき,  $q$  を  $p$  で表せ.



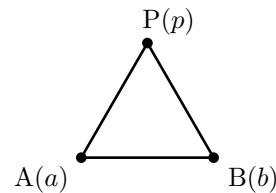
(3) 下図のように点  $C$  は  $\angle AOB$  の二等分線上にある.

$a, b, c$  を用いて,  $\arg$  を使わない等式を作れ.



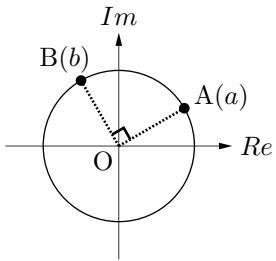
(4)  $\triangle PAB$  は正三角形.

このとき  $p$  を  $a, b, \omega$  で最も簡潔に表せ.

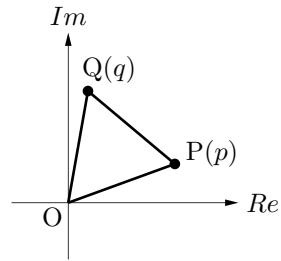


2. 複素平面上の点を表す複素数を考える. ( ) 内はその点を表す複素数とする. 虚数単位は  $i$ ,  $\omega = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$  とする.  
 ( S 級 1 分 35 秒, A 級 2 分 20 秒, B 級 3 分 20 秒, C 級 5 分 )

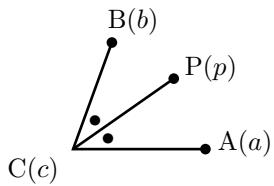
(1)  $a$  を  $b$  で表せ.



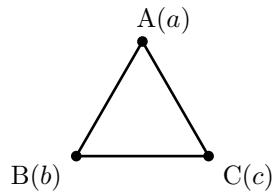
(2)  $\triangle OPQ$  が正三角形であるとき,  $p$  を  $q$  で表せ.



(3) 下図のように点  $P$  は  $\angle ACB$  の二等分線上にある.  
 $a, b, c, p$  を用いて,  $\arg$  を使わない等式を作れ.



(4)  $\triangle ABC$  は正三角形.  
 このとき  $b$  を  $a, c, \omega$  で最も簡潔に表せ.



# 反射テスト 複素平面 角度の表現 01 解答解説

1. 複素平面上の点を表す複素数を考える。()内はその点を表す複素数とする。虚数単位は  $i$ ,  $\omega = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$  とする。  
 (S級1分35秒, A級2分20秒, B級3分20秒, C級5分)

★回転移動  $P(p)$  を原点を中心  $+ \theta$  の回転移動を施すと,  $p \times (\cos \theta + i \sin \theta)$

$$\text{特に } \begin{cases} +90^\circ \text{の回転移動は } \times i \\ +60^\circ \text{の回転移動は } \times \frac{1 + \sqrt{3}i}{2} & \cdots (-\omega^2) \text{ 倍} \\ +120^\circ \text{の回転移動は } \times \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} & \cdots \omega \text{ 倍} \end{cases}$$

★角度が等しいことは偏角を用いる。上の逆算のイメージになる。

$$\theta = \angle POQ \text{ と考えると } q = p(\cos \theta + i \sin \theta) \Leftrightarrow \theta = \arg \frac{q}{p}$$

$$\text{つまり } \angle ABC = \angle DEF \Leftrightarrow \left| \arg \frac{a-b}{c-b} \right| = \left| \arg \frac{d-e}{f-e} \right|$$

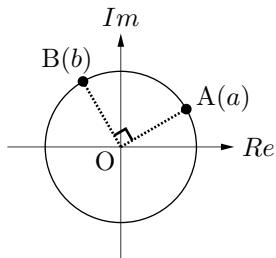
点が図示されていれば、向きに注意して  $\arg \frac{a-b}{c-b} = \arg \frac{d-e}{f-e}$  とできる。

さらに  $\frac{a-b}{|a-b|} \cdot \frac{|c-b|}{c-b} = \frac{d-e}{|d-e|} \cdot \frac{|f-e|}{f-e}$  とすれば複素数の方程式を考えることができる。

☆複素平面は回転・角度の表記に適している。使いこなせば図形や解析問題で武器になる。

☆いくつか別解もあげているが、他の形もあるだろう。ただし、どれもすぐにピンとくるようにすること。

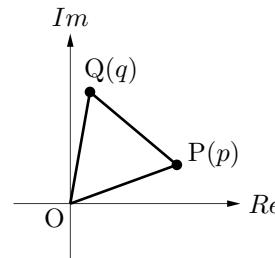
(1)  $b$  を  $a$  で表せ。



$+90^\circ$  の回転移動は  $\times i$

$$b = ai$$

(2)  $\triangle OPQ$  が正三角形であるとき,  $q$  を  $p$  で表せ。



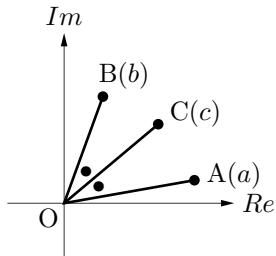
$+60^\circ$  の回転移動は  $\times (\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3})$

$$q = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2} p$$

☆別解  $q = -\omega^2 p$  … 詳細は次ページ

(3) 下図のように点  $C$  は  $\angle AOB$  の二等分線上にある。

$a, b, c$  を用いて,  $\arg$  を使わない等式を作れ。



$$\angle AOC = \angle COB \Leftrightarrow \arg \frac{c}{a} = \arg \frac{b}{c}$$

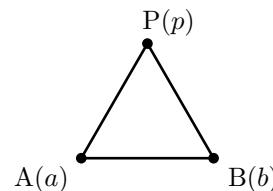
$$\Leftrightarrow \frac{c}{|c|} \cdot \frac{|a|}{a} = \frac{b}{|b|} \cdot \frac{|c|}{c} \Leftrightarrow \frac{c^2}{|c|^2} = \frac{a}{|a|} \cdot \frac{b}{|b|}$$

$$\text{☆別解 } \arg \frac{c}{a} - \arg \frac{b}{c} = 0$$

$$\Leftrightarrow \arg \frac{c^2}{ab} = 0 \Rightarrow \frac{c^2}{ab} = \frac{\bar{c}^2}{\bar{a}\bar{b}} \quad (\text{一応正解。詳細は2(3)で})$$

(4)  $\triangle PAB$  は正三角形。

このとき  $p$  を  $a, b, \omega$  で最も簡潔に表せ。



$+60^\circ$  の回転移動は  $\times (-\omega^2)$  … 詳細は次ページ

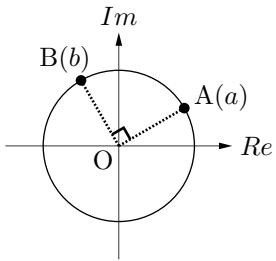
$$\vec{AP} = \vec{AB} \times (-\omega^2) = -\omega^2(b-a)$$

$$p = a + \vec{AP} = a - \omega^2(b-a) = (1 + \omega^2)a - \omega^2b$$

$$= -\omega a - \omega^2 b \quad (\because \omega^2 + \omega + 1 = 0)$$

2. 複素平面上の点を表す複素数を考える。()内はその点を表す複素数とする。虚数単位は  $i$ ,  $\omega = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}$  とする。  
(S級1分35秒, A級2分20秒, B級3分20秒, C級5分)

(1)  $a$  を  $b$  で表せ。

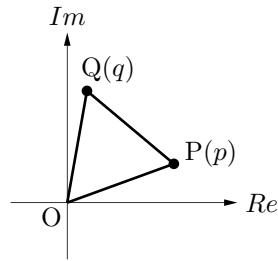


-90°の回転移動は  $\times (-i)$

$$a = -bi$$

☆  $\div (i)$  と考えて,  $\frac{1}{i} = -i$ , 倍。

(2)  $\triangle OPQ$  が正三角形であるとき,  $p$  を  $q$  で表せ。



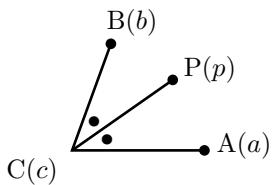
-60°の回転移動は  $\times \{\cos(-\frac{\pi}{3}) + i \sin(-\frac{\pi}{3})\}$

$$p = \frac{1 - \sqrt{3}i}{2} q$$

☆別解  $p = -\omega q$  … 詳細はこのページの下部。

(3) 下図のように点  $P$  は  $\angle ACB$  の二等分線上にある。

$a, b, c, p$  を用いて,  $\arg$  を使わない等式を作れ。



$$\begin{aligned} \angle ACP = \angle PCB &\Leftrightarrow \arg \frac{p-c}{a-c} = \arg \frac{b-c}{p-c} \\ &\Leftrightarrow \frac{b-c}{|b-c|} \cdot \frac{|p-c|}{p-c} = \frac{p-c}{|p-c|} \cdot \frac{|a-c|}{a-c} \\ &\Leftrightarrow \frac{(p-c)^2}{|p-c|^2} = \frac{a-c}{|a-c|} \cdot \frac{b-c}{|b-c|} \end{aligned}$$

☆別解  $\arg \frac{p-c}{a-c} - \arg \frac{b-c}{p-c} = 0$

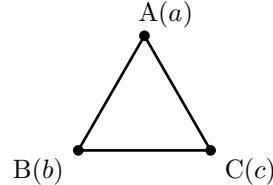
$$\Leftrightarrow \arg \frac{(p-c)^2}{(a-c)(b-c)} = 0 \Rightarrow \frac{(p-c)^2}{(a-c)(b-c)} = \frac{(\bar{p}-\bar{c})^2}{(\bar{a}-\bar{c})(\bar{b}-\bar{c})}$$

☆前者は半直線上にあり, 後者は直線上にある条件になる。

$$\begin{aligned} \frac{z^2}{|z|^2} = \frac{x}{|x|} \cdot \frac{y}{|y|} &\Leftrightarrow \frac{z}{\bar{z}} = \frac{x}{|x|} \cdot \frac{y}{|y|} \\ \Rightarrow \frac{z^2}{\bar{z}^2} = \frac{x^2 y^2}{|x|^2 |y|^2} &\Leftrightarrow \frac{z^2}{\bar{z}^2} = \frac{xy}{\bar{xy}} \Leftrightarrow \frac{z^2}{xy} = \frac{\bar{z}^2}{\bar{xy}} \end{aligned}$$

(4)  $\triangle ABC$  は正三角形。

このとき  $b$  を  $a, c, \omega$  で最も簡潔に表せ。

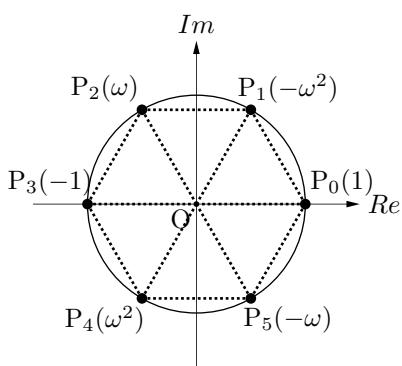


+60°の回転移動は  $\times (-\omega^2)$  … 詳細は下

$$\vec{CB} = \vec{CA} \times (-\omega^2) = -\omega^2(a - c)$$

$$\begin{aligned} b = c + \vec{CB} &= c - \omega^2(a - c) = -\omega^2a + (1 + \omega^2)c \\ &= -\omega^2a - \omega c \end{aligned}$$

## ★ 正六角形と $\omega$



$$\omega = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} \text{ とする。}$$

つまり  $\omega$  倍は +120°の回転移動。  $\Rightarrow \omega^2$  倍は +240°の回転移動。

すると原点に関して対称な移動は  $\times (-1)$  だから, 左図のようになり,

★ +60°の回転移動は  $\times (-\omega^2)$

★ -60°の回転移動は  $\times (-\omega)$

また,  $x^6 = 1 \Leftrightarrow x = \pm 1, \pm \omega, \pm \omega^2$  であることもわかる。

☆  $\omega^3 = 1$  や  $\omega^2 + \omega + 1 = 0$  を使うと計算しやすくなることが多いため, 図形を複素平面で考える場合, なるべく  $\omega$  で考えるといいだろう。